

# 高校教員に対する中途退学者等の状況に関する調査結果 【概要版】

青森県教育委員会

## I 調査概要

### 1 調査の目的

今後の高等学校の中途退学者（以下「中途退学」という）等に対する支援等の基礎資料とするため、中途退学や不登校に至る経緯や現在の状況等の実態について調査を実施する。

### 2 調査対象

県立高等学校に在籍し、おおむね5年以内に中途退学や不登校の生徒への指導経験がある教員  
※ただし、同一の生徒に対し複数の教員が指導した場合、複数名が回答せず、1名のみ回答とする。  
※不登校は、年間30日以上欠席したものとする。

### 3 調査方法

質問紙法によるアンケート調査

- ・県立高等学校に対し事前に調査対象数を照会し、調査票を配布  
（※調査票は、生徒1人につき1部配布）
- ・郵送回収

### 4 調査期間

平成27年4月27日～5月15日

### 5 回収結果

○調査票配布数 753部

○回答件数

中途退学生徒に関する回答	374件（男子200件、女子174件）
不登校から中途退学に至った生徒に関する回答	89件（男子47件、女子42件）
不登校生徒に関する回答	109件（男子40件、女子69件）
合計	572件（男子287件、女子285件）

## II 調査結果の概要

### 中途退学した学年・不登校になった学年

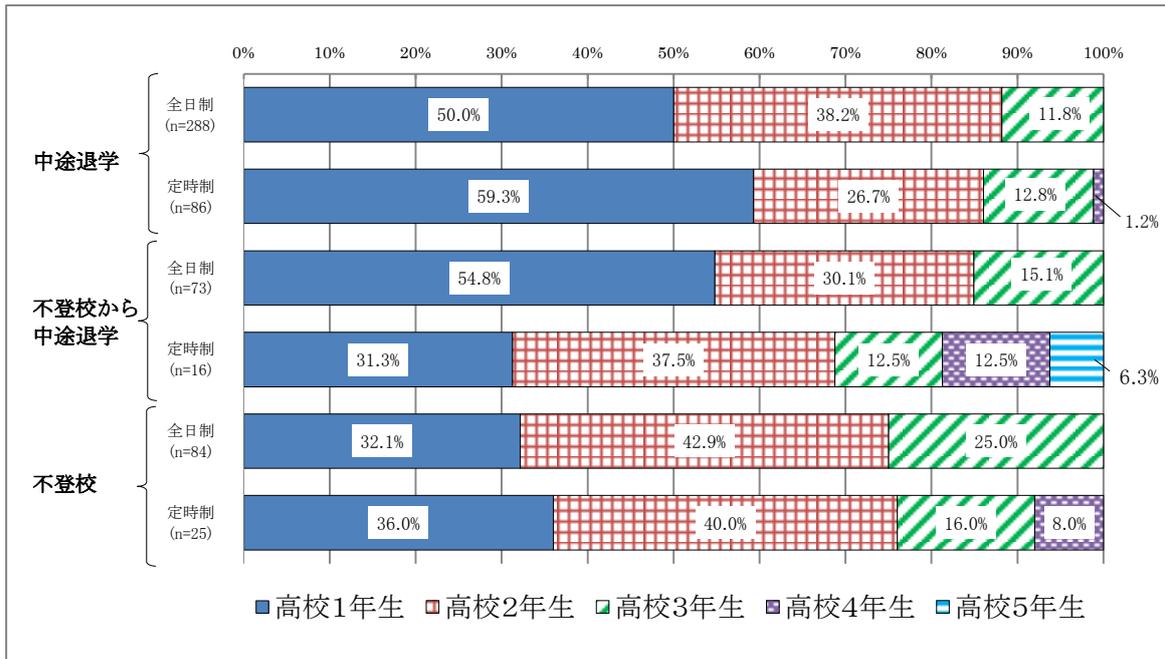
#### ■中途退学した学年は「高校1年生」が概ね過半数、不登校になった学年は「高校2年生」が4割

中途退学した学年は、「高校1年生」が全日制50.0%、定時制59.3%となっている。「高校1年生」と「高校2年生」を合わせると80%を超えている。

不登校から中途退学に至った生徒が中途退学した学年は、全日制において「高校1年生」が54.8%、「高校2年生」を合わせると80%を超えている。定時制については、「高校1年生」（31.3%）より「高校2年生」（37.5%）の方が多くなっている。

不登校になった学年は、「高校2年生」が全日制42.9%、定時制40.0%となっている。「高校1年生」と「高校2年生」を合わせると、不登校になった生徒の75%を超えている。（図1）

図1 中途退学した学年・不登校になった学年



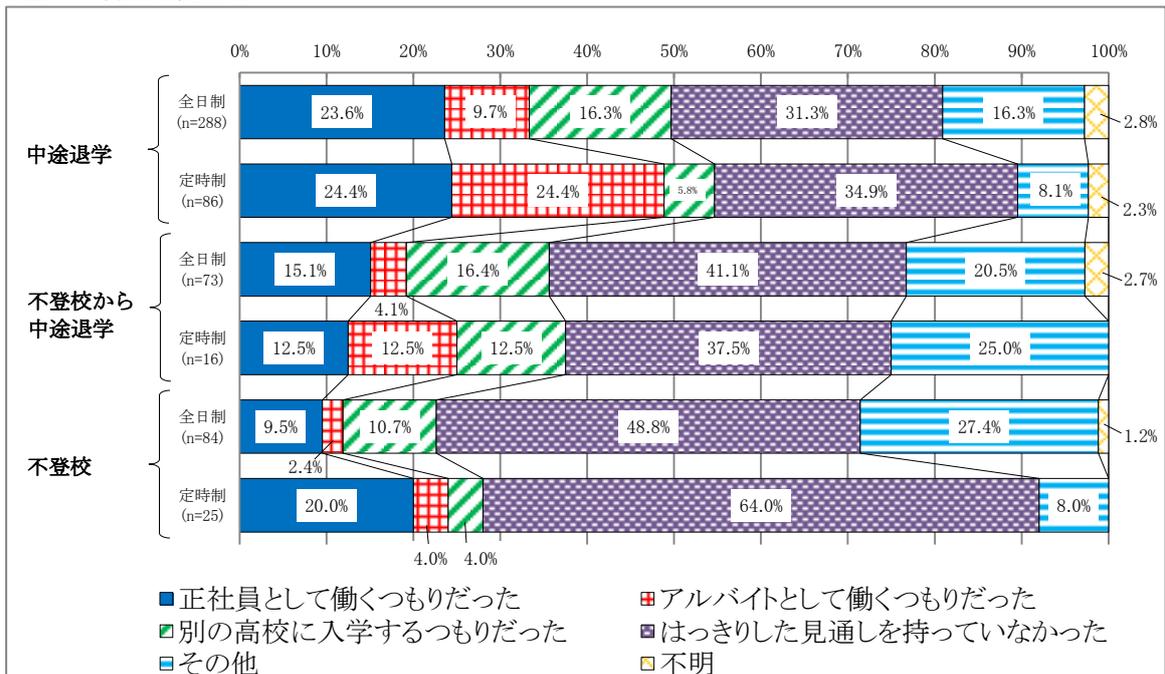
将来の見通し

■中途退学生徒の約3割、不登校から中途退学に至った生徒の約4割、不登校生徒の約5～6割が「はっきりした見通しを持っていなかった」

将来の見通しについては、「はっきりした見通しを持っていなかった」が中途退学生徒・不登校から中途退学に至った生徒・不登校生徒ともに最も高く、特に不登校生徒は、定時制64.0%、全日制48.8%となっている。

次いで「正社員として働くつもりだった」の割合が高く、中途退学生徒は、全日制23.6%、定時制24.4%、不登校は、定時制20.0%となっている。(図2)

図2 将来の見通し



## 中途退学や不登校のきっかけ

### ■中途退学や不登校のきっかけは、「人間関係がうまくいかなかった」こと

高校教員がとらえた中途退学や不登校のきっかけについては、「人間関係がうまくいかなかった」の割合が最も高く、特に、不登校生徒は56%、不登校から中途退学に至った生徒は53.9%と半数を超えている。

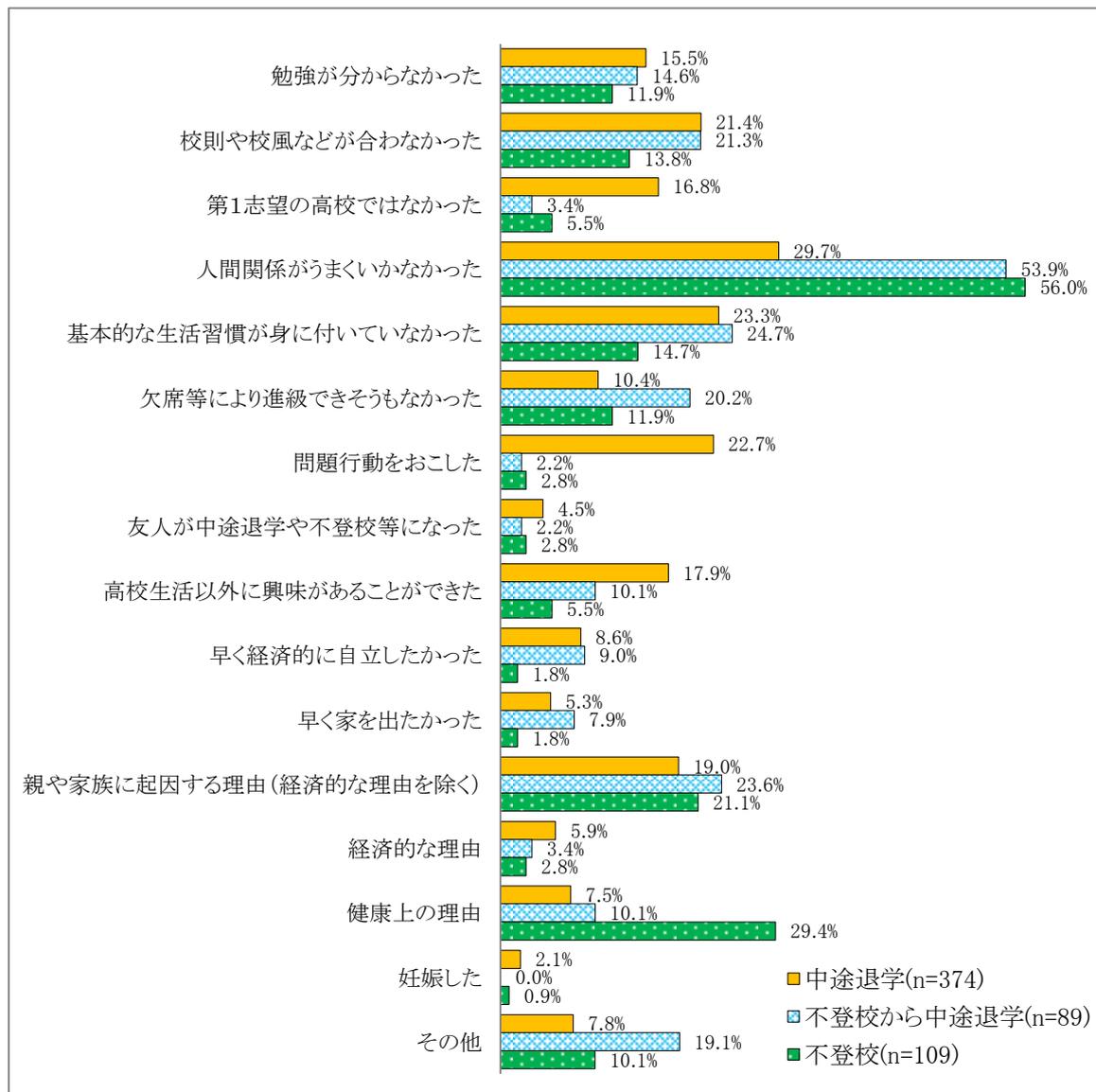
後に続くきっかけは、中途退学と不登校でその様態は少し違ってくる。

中途退学生徒・不登校から中途退学に至った生徒については、次いで「基本的な生活習慣が身に付いていなかった」(23.3%・24.7%)となっている。

不登校生徒については、次いで「健康上の理由」(29.4%)となっている。

不登校から中途退学に至った生徒について、「問題行動をおこした」(2.2%)、「第1志望の高校ではなかった」(3.4%)が、中途退学生徒と比較して非常に少なくなっている点が特徴的である。(図3)

図3 中途退学や不登校のきっかけ（複数回答）



## 高等学校在学中の悩みや不安

### ■在学中の悩みや不安は「人とのコミュニケーションがうまくとれない」こと

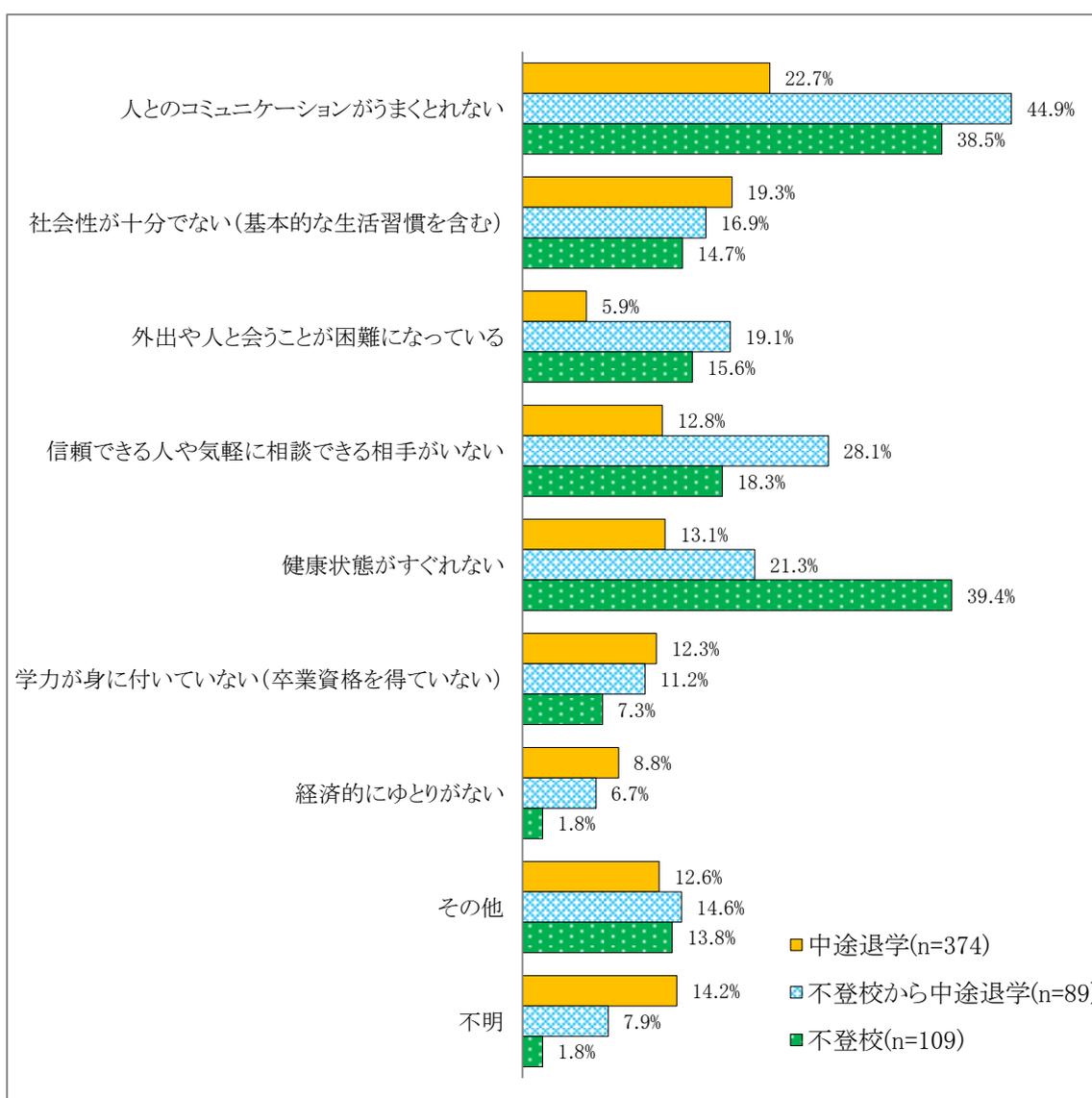
高校教員が把握している、生徒の在学中の悩みや不安については、「人とのコミュニケーションがうまくとれない」が、中途退学生徒・不登校から中途退学に至った生徒・不登校生徒ともに高い割合を示している。特に、不登校から中途退学に至った生徒については、44.9%となっている。

不登校生徒については、「健康状態がすぐれない」（39.4%）の割合が最も高くなっている点特徴的である。

中途退学生徒については、次いで「社会性が十分でない（基本的な生活習慣を含む）」（19.3%）となっている。

不登校から中途退学に至った生徒については、次いで「信頼できる人や気軽に相談できる相手がない」（28.1%）となっている。（図4）

図4 高等学校在学中の悩みや不安（複数回答）



## 高校教員があればよいと思う学校以外からの支援

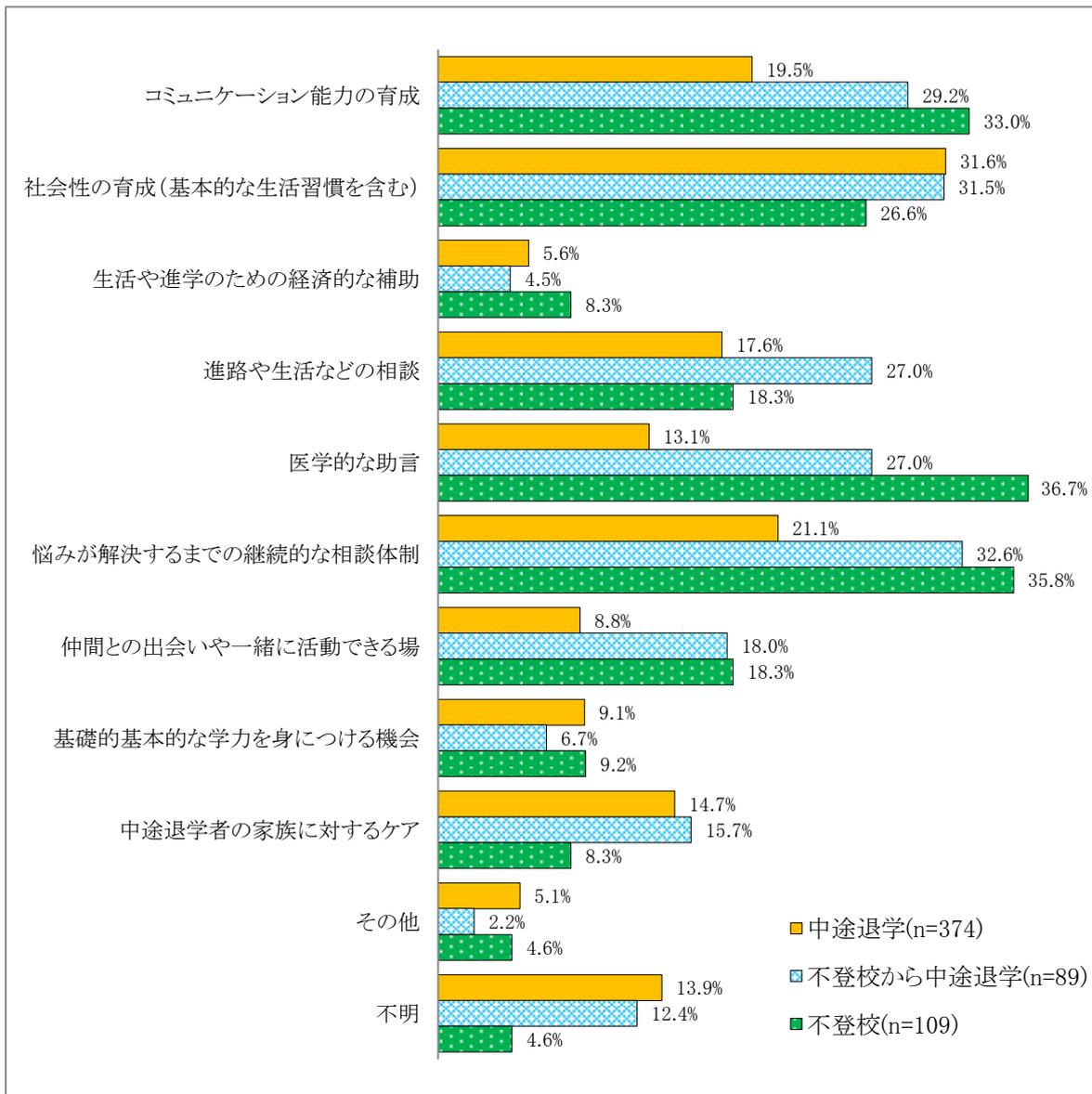
### ■「社会性の育成」「継続的な相談体制」「コミュニケーション能力の育成」の割合が高い 不登校生徒は「医学的な助言」の割合が最も高い

高校教員があればよいと思う学校以外からの支援について、中途退学生徒には、「社会性の育成（基本的な生活習慣を含む）」（31.6%）が最も高く、次いで「悩みが解決するまでの継続的な相談体制」（21.1%）、「コミュニケーション能力の育成」（19.5%）となっている。

不登校から中途退学に至った生徒には、「悩みが解決するまでの継続的な相談体制」（32.6%）、「社会性の育成（基本的な生活習慣を含む）」（31.5%）、「コミュニケーション能力の育成」（29.2%）となっている。更に、「医学的な助言」（27.0%）、「進路や生活などの相談」（27.0%）の割合が高く、特徴的である。

不登校生徒には、「医学的な助言」（36.7%）、「悩みが解決するまでの継続的な相談体制」（35.8%）、「コミュニケーション能力の育成」（33.0%）が高い割合となっている。（図5）

図5 高校教員があればよいと思う学校以外からの支援（複数回答）



## 高校教員が把握している現在の状況【中途退学生徒・不登校から中途退学に至った生徒】

### ■中途退学後の現在の状況は、「働いている」が約3～4割、「在学中」が約4割

今回の調査では、高校教員は、中途退学生徒の54.8%について現在の状況を把握している。その状況については、「働いている」が42.9%、「在学中」が37.6%となっている。(図6)

不登校から中途退学に至った生徒においては、39.3%について現在の状況を把握している。その状況については、「在学中」が42.9%、「働いている」が28.6%となっている。(図7)

図6 現在の状況【中途退学生徒】

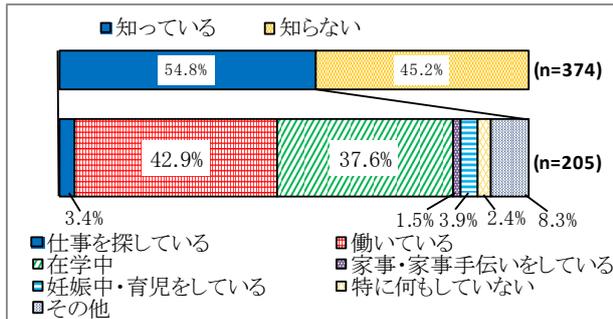
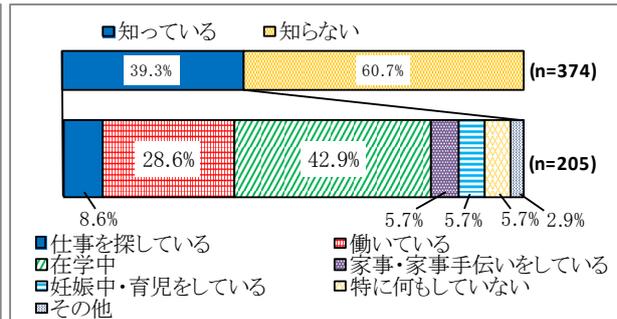


図7 現在の状況【不登校から中途退学に至った生徒】



## 高校教員が把握している就業状況・在籍校種【中途退学生徒・不登校から中途退学に至った生徒】

### ■就業状況は「非正規雇用」が約6割、在籍校種は「通信制」が5～6割

高校教員が把握している就業状況（「働いている」の内訳）は、「フリーター・パートなどの非正規雇用」が最も多く、中途退学生徒の59.1%、不登校から中途退学に至った生徒の60.0%となっている。(図8)

在籍校種（「在学中」の内訳）は、「通信制」が最も多く、中途退学生徒の53.2%、不登校から中途退学に至った生徒の60.0%となっている。(図9)

図8 就業状況（「働いている」の内訳）

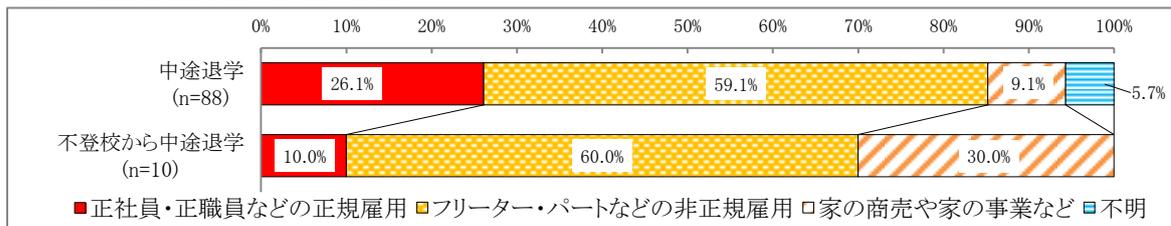
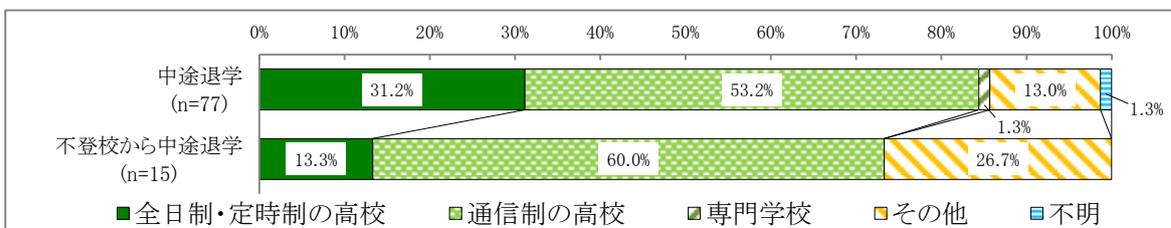


図9 在籍校種（「在学中」の内訳）



発行年月：平成27年12月

発行：青森県教育庁生涯学習課地域連携推進グループ

〒030-8540 青森市新町二丁目3番1号

TEL 017-734-9890 FAX 017-734-8272